

運賃低減バス運行計画(案)について

1 目的

バスの利用者の減少とともに、運行事業者への補助金が増大していることから、都市機能として不可欠なバス路線を確保・維持・活性化するため、新たな視点と逆転の発想を持って、多様な利用目的や効果を生む「路線バスの運賃低減施策」を実施するもの。

2 運行計画内容

(1) 対象路線 市内を運行する路線バス(18路線)
菅平線、真田線、傍陽線、豊殿線、信州上田医療センター線、西丸子線
塩田線、信州の鎌倉シャトルバス、祢津線、佐久上田線、鹿教湯線、武石線
県道川西線、室賀線、青木線、中仙道線、丸子線、長久保線

(2) 実証運行期間
平成25年10月1日から3年間

(3) 運賃設定について

	現行運賃	改定運賃
運賃区界 内の移動	100円～140円	100円
	150円～190円	150円
	200円～240円	200円
	250円～290円	250円
	300円～	300円
運賃区界外への移動		上限500円

- ・ 運賃区界内の移動は上限300円とする
- ・ 運賃区界外への移動は上限500円とする

(4) 他市町村に跨る路線の運賃設定について
(佐久上田線、青木線、中仙道線、丸子線、長久保線)

- ・ 市内間の乗降については低減運賃とし市外からは現行運賃とする。
- ・ 市内⇄市内(低減運賃)、市内⇄市外(現行運賃)

(5) 運行計画の変更案

(主な変更点)

(仮称:御屋敷公園線)

- ・ 赤井方面へのルートの新設(上り6便、下り5便、平日・土曜運行)

(6) 事業効果

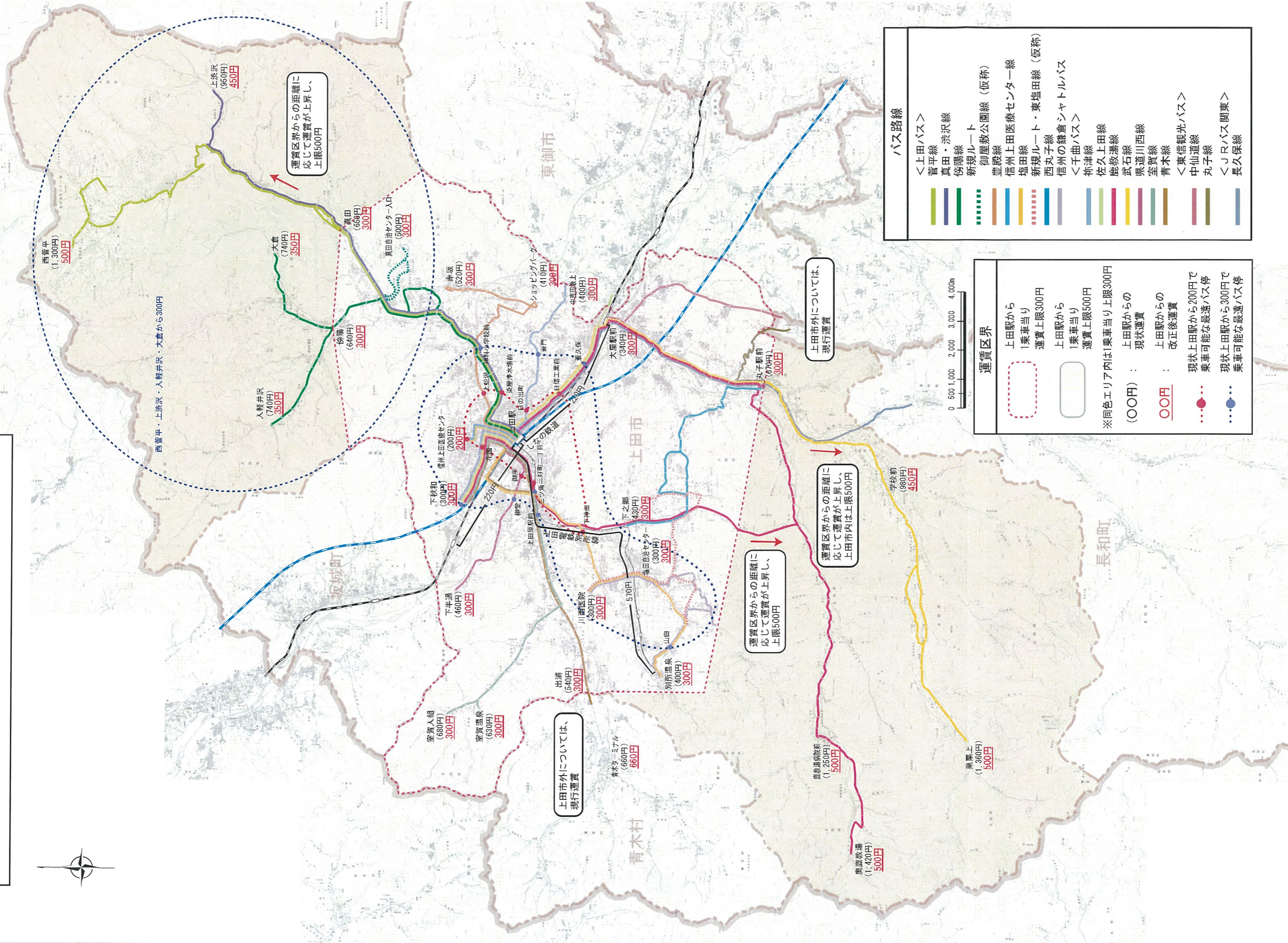
- ・ 低炭素社会づくりの推進(CO2の削減)
- ・ 高齢者の外出促進・健康増進
- ・ 交通渋滞の緩和
- ・ 高校生等通学費負担軽減
- ・ 中心市街地も含めた地域の活性化

(7) 数値目標

- ・ 現在の輸送人員(H23実績、18路線) 1,079千人
平成25年度から3年間で1.5倍の輸送人員を目指す。(約540千人増)

- ・ 平均乗車区間(約220円)を市内 1世帯のうち1人が、1ヶ月に往復1回バスを多く利用することで目標は達成できる。

◆上田市運賃低減バス運行事業計画（運賃区界）（300）



運賃区界からの距離に応じて運賃が上昇し、上限500円

運賃区界からの距離に応じて運賃が上昇し、上限500円

運賃区界からの距離に応じて運賃が上昇し、上限500円

上田市外については、現行運賃

上田市外については、現行運賃

運賃区界

- 上田駅から1乗車当り 運賃上限300円 (Red dashed line)
- 上田駅から1乗車当り 運賃上限500円 (Blue dashed line)

※同色エリア内は1乗車当り上限300円

(○○円) : 上田駅からの現状運賃

○○円 : 上田駅からの改正後運賃

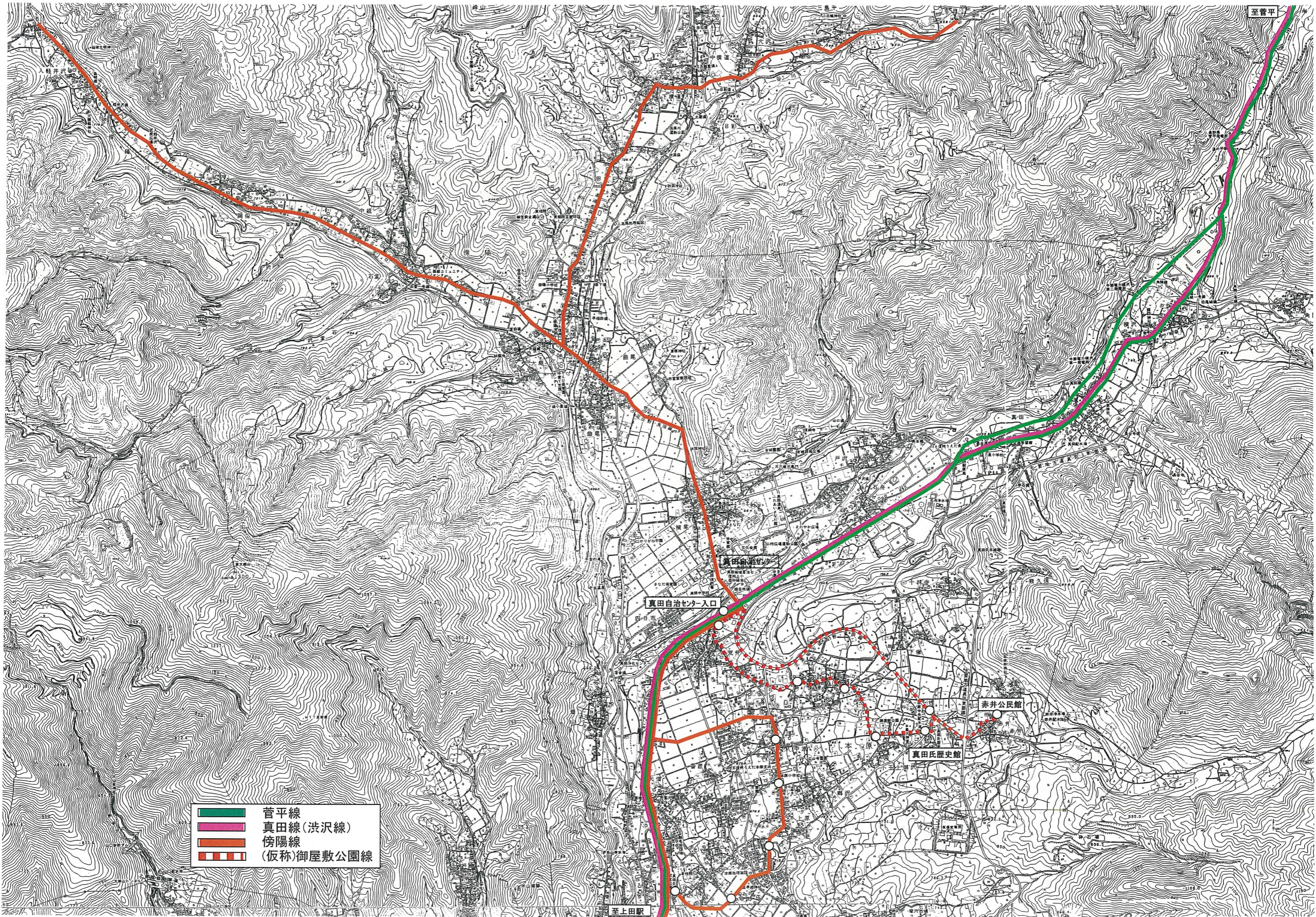
● : 現状上田駅から200円で乗車可能な最速バス停

● : 現状上田駅から300円で乗車可能な最速バス停

バス路線

- <上田バス>
- 菅平線
- 真田・渋沢線
- 傍陽線
- 新規ルート
- 御屋敷公園線（仮称）
- 豊殿線
- 信州上田医療センター線
- 塩田線
- 新規ルート・東塩田線（仮称）
- 西丸子線
- 信州の鎌倉シャトルバス
- <千曲バス>
- 林津線
- 佐久上田線
- 鹿教湯線
- 武石線
- 県道川西線
- 室賀線
- 青木線
- <東信観光バス>
- 中仙道線
- 丸子線
- <JRバス関東>
- 長久保線





- 菅平線
- 真田線(渋沢線)
- 傍陽線
- (仮称)御屋敷公園線

至上田駅

至菅平

真田自治センター入口

赤井公民館

真田歴史館